

サポートガラス増強

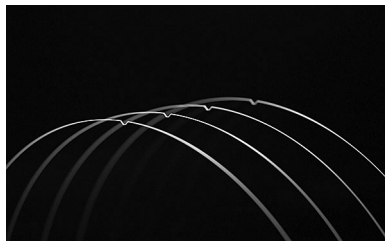
半導体市場で需要が好調

(株)ミツル光学研究所(川崎市宮前区)は、パワー半導体市場の好調を受け、半導体用サポートガラス(写真)の生産を増強する。関連会社のエム・ジェイ・エム(茨城県笠間市)に、1億円規模の設備投資を行い、半導体向けの部材生産部門も設置する。ミツル光学研究所は、2021年度

に秦野中井事業所(神奈川県中井町)に半導体部材生産部門を設立して設備増強を実施しており、半導体分野での業績拡大を図る。

同社はガラスの精密研磨加工を主力に、車載、半導体、ディスプレイ、化学、機械、その他向けと6つの事業セグメントを展開。長年、光学向けや液晶ディスプレイ

プレートの基板ガラス向けで培ったガラス加工技術を活かし、近年は半導体ウエハの研磨工程向けに、半導体用サポートガラスなどを展開し、業績を伸ばしている。21年度の半導体事業部門の売上高は全社売上高の13%を占め、22年度は20%以上に拡大する見通しだ。半導体用サポートガラス



は08年に製造に着手し、14年には汎用タイプをラインアップ。16年に半導体メーカーへ量産納入したことを機に事業が拡大し、直近はパワー半導体市場の拡大が追い風となり引き合いが増

加している。同社の半導体用サポートガラスは、TTV(Total Thickness Variation)が0.5μm以下の平坦度を実現しており、これが他社にはないアドバンテージとなっている。

21年12月に開催された「SEMICON Japan」に初出展し、TTVが0.5μm以下という点が注目を集め、加工技術や品質への認知が高まり顧客数が増加。また、同社初のマスクロットキャラクター「ミツル君」も作成しており、今後、半導体業界でのさらなる認知度向上に注力する。

